

平成 2 4 年 1 2 月 2 1 日

亀岡市議会議長 木曾 利廣 様

発議者 西口 純生

湊 泰孝

馬場 隆

日高 省子

#### 意見書案の提出について

別紙意見書案を当市議会の議決をもって、それぞれの宛先に提出されたく、亀岡市議会会議規則第 1 4 条の規定により提出します。

**「ものづくり中小企業」の振興のため、南丹地域の高等学校に  
工業系学科（コース）の設置を求める意見書（案）**

わが国のものづくり産業は、産業の空洞化、世界経済の低迷等、極めて厳しい状況に置かれていますが、南丹地域には、国内外の産業を支える高い技術力を誇るものづくり企業が多様な分野にわたって立地し、貴重な雇用機会を創出し、本市の地域経済、雇用を支えています。

そのような中、市内のものづくり中小企業にとっては、地域での優秀な若い技術系人材の確保が大きな課題となっております。

ものづくり中小企業では、工業系の学校で一定の技術を習得した人材を求めています。当地域には、工業系の学科を有する教育機関がないため、工業系の人材確保が特に困難な状況にあります。また、中学校生徒がものづくり産業に関心を持ち、工業系の高等学校への進路を希望する場合は、福知山市や京都市内等に所在する学校を選択せざるを得なくなり、保護者の経済的な負担も大きくなります。

このため、当地域の高等学校に工業系の基本技術を習得できる学科を設置し、地域のものづくり産業を担う人材を育成することが求められています。

普通科志向の時代的な風潮はありますが、これは「ものづくり」の面白さ、ものづくり中小企業の実態が知らされていないことも一つの要因であると考えます。小中学校時代からものづくりに接する機会が増えれば、工業系の高等学校に興味を持ち、入学する生徒は確実に増えると思われれます。

当地域には多くのものづくり企業があり、インターンシップや実習などを行える条件に恵まれています。本市においても、「地域ふれあいサイエンスフェスタ」の開催などを通じて、地域で人材を育てるため、小中学校とものづくり企業の橋渡しをするなど、様々な工夫をして、一層の機会づくりを推進しております。

よって、京都府におかれましては、南丹地域に工業系の教育機関がないことに鑑み、地域のものづくり産業の振興のため、南丹地域の高等学校に工業系学科（コース）を設置していただきますよう、強く要請します。

以上、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

平成24年12月21日

京都府知事  
京都府教育委員会委員長 } 宛

亀岡市議会議長 木曾 利廣